

# 全日本語りネットワーク

2008. 4. 30 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 5-19

桐生市市民活動推進センター 内

(Fax) 0277-47-4067 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

## ニュース

## 遠野からこんにちは

とおの昔話語り部・「いろり火の会」会長

工藤 さのみ

皆さんご存知のとおり、佐々木喜善は遠野市土淵町に生まれ、小さい頃から昔話を聞いて育ち、成人してからも近所の老人たちから採話し、数多くの昔話を知りつくしていました。その佐々木喜善と、民俗学の大家柳田國男との出会い…柳田は喜善のことを「訛りがきつく分かりにくい、しかしお化け話など奇怪な話をする若者だ」と言ったと伝わっています。柳田は明治43年に『遠野物語』を発刊、そのおかげで当地は「民話のふるさと遠野」と言っていただけのようになり、久しく時は流れました。

そして今、世の中で求められている情操教育の一環として、昔話が脚光を浴びるようになり、日本中いたるところで色々な形で語られています。本当に素晴らしいことだと思います。また自分もこの地に生まれ育ち、小さい頃より耳にしてきた昔話に関わることができて、感謝しています。特に今年は、「全日本語りの祭り」の会場を遠野と決めていただき、ますます語りに関わっていて良かったと思っております。多くの方々との出会いが大きな実りを与えて下さると思っております。とても楽しみです。

昨年末、もう一つ嬉しいことがありました。先に述べた佐々木喜善が、昭和2年に発刊した『老媪夜譚』（おばあさんの夜ばなしという意味）が、遠野物語研究所により復刻刊行されたのです。この本は、遠野の昔話の原点と言っても過言ではないそうです。私たち語る者にとって、力強い味方ができたと思っております。と同時に、改めて先人たちが大切に語り継いできた言葉の文化を、次世代へ、楽しみながら、正しく継承できたらと思っております。

全国の語りに関わっている皆さん、ぜひ「全日本語りの祭り in 遠野」においでください。季節は秋、遠野盆地の大空の下で、この空気の中で、この景色の中で、この風音の中で語り継がれ、根付いてきた伝説の一こま一こまを身近に感じていただきたいのです。

心のふるさと、永遠のふるさと、遠野でお待ちいたしております。